

IPM実践指標策定の必要性等について

1. 我が国におけるIPMの現状

- (1) 我が国農業全体について環境保全を重視したものに転換することが求められる中で、病害虫防除の分野では、IPMの概念（病害虫が発生しにくい環境を整備すること、病害虫の発生状況（要防除水準以上）を確認すること、病害虫の発生状況に基づく適切な防除手段・防除時期を選択すること）に基づく病害虫管理の推進は極めて重要。
- (2) また、IPMの推進に必要な病害虫防除技術は一定程度確立されており、新たな防除技術の農業現場への導入も一定程度進展。
- (3) しかしながら、農業現場では、例えば農薬の使用回数を減らしたり、天敵昆虫を放飼さえすればIPMであるかの認識があり、栽培体系全体を通じて総合的に病害虫を管理するというIPM本来の概念が十分浸透していない現状。
- (4) このことは、IPMの実践の程度を適切に評価する尺度が存在しないことから、現在の水準を明確に把握できず、また、明確な目標が定められないことに起因。

2. IPM実践指標策定の必要性等

- (1) このような現状を打開し、IPM本来の概念に基づく病害虫管理を農業現場に普及させていく上では、IPMの概念を明確にするとともに、農業現場でIPMの実践度を簡単に評価できる指標（IPM実践指標）を地域の実情に応じて各都道府県で策定する必要。
- (2) 農林水産省においては、IPM実践指標の標準的なイメージ等を取りまとめた指針（総合的病害虫管理（IPM）実践指標策定指針）を作成し、都道府県に提示する必要。

3. IPM実践指標の活用方策

- (1) IPM実践指標は、当面、平成17年度予算として概算要求を行っている植物防疫課の新規事業により、都道府県での策定及びその普及推進を図ることを念頭。
- (2) 将来的には、環境保全を重視したより高いレベルの環境保全の実現を目指す農業者の育成に向けた支援策の要件としての活用も視野。